

令和 6 年 6 月 7 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19H02333

研究課題名（和文）「住空間史学」構築のための分野横断的研究

研究課題名（英文）Cross-disciplinary research for the development of a "History of Living Space"

研究代表者

大場 修 (Oba, Osamu)

立命館大学・衣笠総合研究機構・教授

研究者番号：20137128

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の成果は『付属屋と小屋の建築誌 - もう一つの民家の系譜 -』（大場修編著、鹿島出版会、2024年3月）に集約された。本書は付属屋や小屋を多様な視点から取り上げ、その成立背景や風土条件との関わり、独自の機能や意匠・工法・構造的特徴を考察した。これにより、付属屋や小屋が主屋にまして多様性に富み、地域固有の集落や街並の景観形成に重要な役割を果たしてきたことを明らかにし、小屋と呼ばれる小さく簡単な建物がなぜ今日まで使われて続けてきたのか、その背景と維持のメカニズムを探った。大工の専門技術に委ねられてきた民家の主屋とは異なる人と住空間との持続的な関わりや諸相を小屋や付属屋から読み解いた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、従来の伝統民家が即主屋を指していた通念を脱して、民家は小屋・付属屋・民家・屋敷・集落という歴史的住空間の一体性の中で発展したこと、民家は付属屋・小屋なしでは成立しないことを、本研究は『付属屋と小屋の建築誌 - もう一つの民家の系譜 -』の刊行を通して、視線を主屋からシフトすることで浮き彫りにした。日本の伝統的な住空間において、付属屋と小屋は主屋と同等で不可欠な存在であることを明確にしたことで、本研究は伝統民家の文化的評価の視点を敷地全体へ押し広げる意義と役割を果たした。日本各地で進展する「重要伝統的建造物群」や「重要文化的景観」の地区選定事業に対しても、学術的に寄与し得るはずである。

研究成果の概要（英文）：The results of this research are summarized in "Architectural History of Accessory Buildings and Huts: Another Genealogy of Minka" (edited by Osamu Oba, Kajima Publishing House, March 2024). This book takes up attached houses and huts from a variety of perspectives, examining the background of their establishment, their relationship to climatic conditions, and their unique functions, design, construction methods, and structural characteristics. It also explores the background and maintenance mechanisms of these small, simple buildings called huts, and why they have continued to be used to this day. The huts and outbuildings reveal various aspects of the sustained relationship between people and their living space, which is different from that of the main building of the minka, which has been left to the specialized skills of carpenters.

Translated with DeepL.com (free version)

研究分野：建築歴史・意匠

キーワード：付属屋 小屋 集落 民家 屋敷構え 石造

1. 研究開始当初の背景

民家や集落、町並に関する建築学研究は、「民家史学」に留まらず建築計画・農村計画、建築意匠、構法など各領域で展開されている。伝統建築の中で民家ほど多方面から注目される素材はない。民家の研究は民家史学が先導してきた。しかし実は、民家史研究は主屋に偏り、付属屋を省いてきた。民家史は「主屋建築史」だと言い換えてもいい状況が続いていた。

付属屋の無視は、集落に向かう関心の欠如と通底しているとの認識もあった。集落との接点を持たない民家史学の現状は、地域の再生や防災等の諸課題にも対応できないはずである。主屋・付属屋・屋敷構えから集落景観まで、これを仮に「住空間」と総称すれば、住空間の研究「住空間学」は、実は空間分析を軸とする農村計画学や意匠・構法学の方が、民家史学よりも先行しているといった状況があった。

2. 研究の目的

本研究は、住空間学 + 民家史学 = 「住空間史学」の構築により、住空間の歴史性・地域性（地域差）・空間特性について、民家史学のフレームを越えた複合的視点から系統的・総合的に捉え直すことを目的とした。民家史学と関連分野の視点と方法を統合する「住空間史学」は、横軸と縦軸の視点複合により、付属屋から屋敷構え、集落、景観全体の形成過程と空間特性を包括的に明らかにすることを目的に掲げた。

すなわち、主屋と付属屋との構造的・機能的関係、両者の相互補完的關係（付属屋が主屋を規定することもある）を明確にする。この種の関係性は主屋からは見えにくく、付属屋に視点を据えて初めて把握できる場合がある。付属屋 主屋 集落の関係性の下で、民家の建築的特徴を始めその地域性、階層性も十全に説明し得る、と考えた。

3. 研究の方法

「住空間史学」とは住の空間と歴史を総合する新規の研究フレームである。そのために、歴史軸と空間・意匠的視点を包含する歴史 + 意匠 + 計画の三位一体による分野横断的体制を組んだ。三者の共同作業でなければ果たせない成果を見越した研究チームである。

本研究は、民家の地域性や階層性は付属屋や小屋（内蔵・蔵座敷・舟小屋等）から理解できることが多いと考え、研究蓄積が乏しい付属屋に力点を置き、個別課題に共同研究体制で取り組んだ。具体的に本研究は、研究代表者（大場）に、研究分担者6人で遂行した。代表者は調査全体を統括し、同時に各研究リーダーと共同して調査に当たった。課題分担は、建築史系担当者（大場・安高・青柳）と、空間・意匠系の分担者（平尾・安森・小林・黒野）が共同的に取り組む態勢を組んだ。

4. 研究成果

本研究の成果は『付属屋と小屋の建築誌-もう一つの民家の系譜-』（大場修編著、鹿島出版会、2024年3月）に集約された。本書は付属屋や小屋を多様な視点から取り上げ、その成立背景や風土条件との関わり、独自の機能や意匠・工法・構造的特徴を考察した。これにより、付属屋や小屋が主屋にまして多様性に富み、地域固有の集落や街並の景観形成に重要な役割を果たしてきたことを明らかにし、小屋と呼ばれる小さく簡単な建物がなぜ今日まで使われて続けてきたのか、その背景と維持のメカニズムを探った。大工の専門技術に委ねられてきた民家の主屋とは異なる人と住空間との持続的な関わりや諸相を小屋や付属屋から読み解いた。

本研究は、従来の伝統民家が即主屋を指していた通念を脱して、民家は小屋・付属屋・民家・屋敷・集落という歴史的住空間の一体性の中で発展したこと、民家は付属屋・小屋なしでは成立しないことを、本研究は『付属屋と小屋の建築誌-もう一つの民家の系譜-』の刊行を通して、視線を主屋からシフトすることで浮き彫りにした。日本の伝統的な住空間において、付属屋と小屋は主屋と同等で不可欠な存在であることを明確にしたことで、本研究は伝統民家の文化的評価の視点を敷地全体へ押し広げる意義と役割を果たした。日本各地で進展する「重要伝統的建造物群」や「重要文化的景観」の地区選定事業に対しても、学術的に寄与し得るはずである。

鹿島出版会の新刊案内

# めくるめく 付属屋の世界

日本各地の個性豊かな付属屋が  
集結した小屋図鑑。

これまで建築史で語られることのなかった  
「付属屋」に着目した初めての本。

# 付 属 屋 と 小 屋 の 建 築 誌

もうひとつの民家の系譜



大場 修 編著

青柳憲昌、安高尚毅、奥矢 恵、長田城治、角 幸博、  
釜床美也子、黒野弘晴、畔柳昭雄、小林久高、小林基澄、  
真田純子、陳 国棟、中村琢巳、中村 航、平尾和洋、  
安森亮雄、山田富士理、山田由香里 著

2024年3月刊

定価3,080円(本体2,800円+税10%)

A5判・コデックス装/308頁・オールカラー

鹿島出版会

全国の書店もしくはAmazonなどでお求めいただけます。

人々が住み、生活をする場となる「主屋」に対し、主に生業を担う作業場や、保管・収納する空間などとして使用される「付属屋」。

主屋は木造軸組みが主であるのに対し、付属屋は石造、土蔵、石屋根木造、木骨石造など構法も様々で、それゆえ主屋以上に日本民家の地域性がより濃く反映され、地域の景観形成に大きな影響を与えている。

個性豊かな日本各地の「付属屋」の魅力をカラーでビジュアルで紹介する。

## 目次

まえがき 付属屋と小屋が面白い 大場修

### 第1章 付属屋・小屋の知られざる世界 大場修

価値と魅力の伝え方／小屋とは何か／異形の建築

### 第2章 「生業（なりわい）」が生み出す小屋の形

第1節 生業を担う小屋 平尾和洋

第2節 東出雲・畑集落の柿小屋 小林久高

第3節 南予・狩浜の養蚕小屋 釜床美也子

第4節 佐渡島の棟持柱を持つ「二戸」建ての舟小屋 大場修、陳昌棟

第5節 隠岐の島の舟小屋 小林久高

第6節 北山杉の磨き丸大倉庫 大場修

第7節 宇治茶の茶工場集落 奥矢志

第8節 平戸市生月島・鯨船の納屋場 山田由香里

### 第3章 風土に向き合い、自然と共生する営み

第1節 砺波平野の集落の成り立ちとその空間秩序 黒野弘靖

第2節 付属屋と屋敷構え 平尾和洋

第3節 弘前の武家屋敷をつくる生垣と庭・樹木 中村琢巳

第4節 上越市高田・雪国の居住システムとしての雁木 黒野弘靖

第5節 豪雪地帯・秋田の類いまれな「鞘」 安高尚毅、大場修

第6節 福井県旧今井宿の「雪囲い」 青柳憲昌

### 第4章 命を守る——生存のための小屋

第1節 水防の知恵と住まい 青柳憲昌

第2節 荒川・利根川流域の水屋・水塚 青柳憲昌

第3節 和歌山県古座川の水揚げ小屋と石積み集落 大場修

第4節 富士山の山小屋——板屋と石室 奥矢志

### 第5章 石を積み込み——石と木のハイブリッドな世界

第1節 石積み建物から見えるもの 安藤亮雄

第2節 宇都宮の大谷石建物 安藤亮雄、小林基澄

第3節 国見の石蔵と高島の外構 長田城治

第4節 小樽の木骨石造倉庫 角寺博

第5節 長崎の練壇民家と「ド・ロ壁」 大場修

第6節 新島の抗火石建物 釜床美也子

### 第6章 土と石でつくるハンドメイドの風景

第1節 土を積んだ建築 中村航、山田宮士理

第2節 奈良のドテヤ・広島島のハンヤ・大分のネリビー 中村航、山田宮士理

第3節 長崎のドヒョモタセ 大場修

第4節 石積みという「術」——農作業としての石積み 真田純子

### 第7章 土蔵——究極の職人技

第1節 「土蔵」の成立と終焉 青柳憲昌

第2節 左官技術からひもとく土蔵 山田宮士理

第3節 諏訪地方のダンが付いた土蔵 大場修、安高尚毅

第4節 諏訪地方の「たてぐるみ」とは何か 大場修、安高尚毅

第5節 会津喜多方の蔵座敷 大場修、安高尚毅

第6節 横手市増田の蔵座敷 大場修

### 第8章 もうひとつの民家の系譜 大場修

動態としての小屋「オリアヤ養蚕」の意味／

住み続けるための壁／屋敷構えの研究／豪雪と共生する営み／

石の振る舞い／ハンドメイドの世界／土蔵と土蔵造り／結語

あとがき

株式会社 鹿島出版会

〒104-0061 東京都中央区銀座6-17-1  
銀座6丁目-SQUARE 7階

MAIL: info@kajima-publishing.co.jp

鹿島出版会は創業60周年を迎えました。

ウェブサイトにて特別企画「鹿島出版会と」を公開中  
https://www.kajima-publishing.co.jp

鹿島出版会の情報発信

Facebook: https://www.facebook.com/kajima.publishing

Instagram: https://instagram.com/kajima\_publishing



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計37件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 37件）

1. 著者名 木村智, 大坪真子, 平尾和洋	4. 巻 15
2. 論文標題 別府市鉄輪の空き家活用による防災・減災の可能性に関する基礎的研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史都市防災論文集	6. 最初と最後の頁 83-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 遠藤康一, 金田一遥, 安森亮雄	4. 巻 2021
2. 論文標題 登り窯のある製陶所における工程と設い 地域産業におけるものづくりの空間に関する研究 (6)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集 (東海)	6. 最初と最後の頁 315-316
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金田一遥, 安森亮雄, 遠藤康一	4. 巻 2021
2. 論文標題 登り窯のある製陶所におけるもの・建築・斜面の連関 地域産業におけるものづくりの空間に関する研究 (7)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集 (東海)	6. 最初と最後の頁 317-318
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉川奎, 青柳憲昌	4. 巻 15
2. 論文標題 出石旧城下町の歴史的災害による罹災範囲の復元的考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史都市防災論文集	6. 最初と最後の頁 121-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 林欽乃香, 青柳憲昌	4. 巻 2021
2. 論文標題 出石旧城下町の土蔵群および出石酒造土蔵の建築的特徴	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 885-886
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村岡勇気, 青柳憲昌	4. 巻 2021
2. 論文標題 京都の町家における「床の間」の特徴	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 887-888
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤公人, 青柳憲昌, 松本直之, 門脇耕三	4. 巻 2021
2. 論文標題 世田谷区高見澤邸に用いられた部品・構法の変容の過程 戦後木造庶民住宅の増改築履歴調査 その3	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 353-356
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青柳憲昌	4. 巻 230
2. 論文標題 ディテールにみる戦後建築の伝統表現 第10回 丹下健三 建築の「レガシー」とは何か	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ディテール	6. 最初と最後の頁 89-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青柳憲昌	4. 巻 229
2. 論文標題 ディテールにみる戦後建築の伝統表現 第9回 日本の建具の可能性 「建具」をめぐる近代の伝統解釈とその瓦解	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ディテール	6. 最初と最後の頁 91-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青柳憲昌	4. 巻 1750
2. 論文標題 戦後住宅生産史 概観 住宅生産の近代化と「建築家」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 建築雑誌	6. 最初と最後の頁 20-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 芝崎 佑奈,大場 修	4. 巻 94
2. 論文標題 京都花見小路界限における茶屋街の変遷過程 (用途・景観)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本建築学会北海道支部研究報告集	6. 最初と最後の頁 426-429
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 今井 達生,大場 修	4. 巻 94
2. 論文標題 東日本における町家建築の特徴 -炊事機能・接客機能・吹抜空間-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本建築学会北海道支部研究報告集	6. 最初と最後の頁 442-445
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三輪 晋也, 平尾 和洋, 大場 修	4. 巻 61
2. 論文標題 宇治茶生産集落和束町湯船地区における集落構成および主屋架構の諸特性分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集	6. 最初と最後の頁 177-180
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上田 圭太郎, 三輪 晋也, 平尾 和洋, 大場 修	4. 巻 2021
2. 論文標題 宇治茶生産集落和束町湯船地区における集落構成および主屋架構の諸特性分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 35-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 奥村 収一, 郡 裕美, 大場 修	4. 巻 2021
2. 論文標題 京都の近代和風住宅に関する研究 京都御所清和院御門正面の角地に建つ建築を通して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 779-780
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大場 修	4. 巻 1752
2. 論文標題 「京町家カルテ」が解く-京都人が知らない京町家の世界	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 建築雑誌	6. 最初と最後の頁 74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 奥矢 恵, 大場 修	4. 巻 68
2. 論文標題 那須岳三斗小屋温泉大黒屋本館の復元的考察-湯の信仰にねざす山小屋建築	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本建築学会技術報告集	6. 最初と最後の頁 465-470
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 落合 純菜, 安高 尚毅	4. 巻 2020
2. 論文標題 古河城下における伝統的町並みの残存状況と店蔵町家の復原考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 85-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 門脇耕三, 青柳憲昌, 樋渡彩, 松本直之, 伊藤公人	4. 巻 2020
2. 論文標題 世田谷区高見澤邸の都市的状況と平面の変遷 戦後木造庶民住宅の増改築履歴調査 その1	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 1257-1258
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤公人, 青柳憲昌, 松本直之, 門脇耕三	4. 巻 2020
2. 論文標題 世田谷区高見澤邸の構法と部品の変化 戦後木造庶民住宅の増改築履歴調査 その2	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 1259-1260
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青柳憲昌	4. 巻 227
2. 論文標題 ディテールにみる戦後建築の伝統表現 第7回 現代《床の間》思考 1950年代の《床の間》解釈に学べ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ディテール	6. 最初と最後の頁 85-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青柳憲昌	4. 巻 224
2. 論文標題 ディテールにみる戦後建築の伝統表現 第6回 吉阪隆正+U研究室 ヴェネチア・ピエンナーレ日本館	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ディテール	6. 最初と最後の頁 93-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 早坂楽, 安森亮雄, 大嶽陽徳, 小林基澄	4. 巻 2020
2. 論文標題 田中・門前地区における大谷石建物の外形と町並みの構成	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 613-614
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 早坂楽, 安森亮雄, 小林基澄	4. 巻 26
2. 論文標題 大谷石建物と町並みの調査と類型分析 - 宇都宮市徳次郎町田中・門前地区を事例として -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本建築学会技術報告集	6. 最初と最後の頁 1202-1207
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aijt.26.1202	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 平尾和洋, 田中勇気	4. 巻 14
2. 論文標題 京都市下京区雅学区の事前復興計画に向けた建築物の類型化及びその評価に基づく復興モデルの提案と延焼危険性の分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史都市防災論文集	6. 最初と最後の頁 155-162
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 内貴美侑, 平尾和洋	4. 巻 14
2. 論文標題 京都市嵐山地区の事前復興計画に向けた建築物の類型化及び印象評価に基づく浸水被害を想定した復興モデルの提案	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史都市防災論文集	6. 最初と最後の頁 147-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 奥矢 恵, 大場 修	4. 巻 26
2. 論文標題 富士山における石室の形式と構法	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本建築学会技術報告集	6. 最初と最後の頁 753-757
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 今井 達生, 大場 修	4. 巻 2019
2. 論文標題 型友禅・京子紋を生業とした京町家の空間形式	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集 (北陸)	6. 最初と最後の頁 849 ~ 850
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 織田 苑子, 大場 修	4. 巻 2019
2. 論文標題 台湾原住民の伝統家屋「石板屋」の意匠について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集 (北陸)	6. 最初と最後の頁 429 ~ 430
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 内貴美侑, 西村祐香, 遠藤直久, 平尾和洋	4. 巻 59
2. 論文標題 京都市西陣地区の事前復興計画を想定した街並みエレメントの選定及びそれを用いた街並み構成の評価	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集	6. 最初と最後の頁 385-388
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田中勇氣, 小玉寧人, 平尾和洋	4. 巻 59
2. 論文標題 京都市正親学区の事前復興計画を想定した建築物の類型化及び延焼シミュレーションと防火連担長屋の提案	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集	6. 最初と最後の頁 389-392
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小林基澄, 安森亮雄, 大嶽陽徳, 丸山貴大	4. 巻 2019
2. 論文標題 大谷地区における採石関連の産業遺産の時層- 栃木県宇都宮市を中心とする大谷石建造物に関する研究 (15)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集 (北陸)	6. 最初と最後の頁 203 ~ 204
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 丸山貴大, 安森亮雄, 小林基澄, 大嶽陽徳	4. 巻 2019
2. 論文標題 採石関連の産業遺産における時層と空間の重ね合わせによる場所性-栃木県宇都宮市を中心とする大谷石建造物に関する研究(16)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸)	6. 最初と最後の頁 205~206
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤克哉, 安森亮雄, 大嶽陽徳, 小林基澄	4. 巻 2019
2. 論文標題 群馬県桐生市における大谷石造ノコギリ屋根工場の構成と増改築-栃木県宇都宮市を中心とする大谷石建造物に関する研究(17)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸)	6. 最初と最後の頁 373~374
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青柳憲昌, 坪田勲伴, 大場修	4. 巻 155
2. 論文標題 旧北国街道今庄宿における近代町家の建築的特徴	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 民俗建築	6. 最初と最後の頁 8-17
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉田成宏, 青柳憲昌	4. 巻 2019
2. 論文標題 長江家住宅北棟の復元的考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸)	6. 最初と最後の頁 851-852
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青柳憲昌, 坪田勲伴, 大場修	4. 巻 2019
2. 論文標題 旧今庄宿大黒屋(主屋)の建築史的価値	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸)	6. 最初と最後の頁 857-858
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計9件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 今井 達生 ・大場 修
2. 発表標題 型友禅・京子紋を生業とした京町家の空間形式
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 織田 苑子 ・大場 修
2. 発表標題 台湾原住民の伝統家屋「石板屋」の意匠について
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内貴美侑, 西村祐香, 遠藤直久, 平尾和洋
2. 発表標題 京都市西陣地区の事前復興計画を想定した街並みエレメントの選定及びそれを用いた街並み構成の評価
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中勇気,小玉寧人,平尾和洋
2. 発表標題 京都市正親学区の事前復興計画を想定した建築物の類型化及び延焼シミュレーションと防火連担長屋の提案
3. 学会等名 日本建築学会近畿支部研究報告会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小林基澄,安森亮雄,大嶽陽徳,丸山貴大
2. 発表標題 大谷地区における採石関連の産業遺産の時層-栃木県宇都宮市を中心とする大谷石建造物に関する研究(15)
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 丸山貴大,安森亮雄,小林基澄,大嶽陽徳
2. 発表標題 採石関連の産業遺産における時層と空間の重ね合わせによる場所性-栃木県宇都宮市を中心とする大谷石建造物に関する研究(16)
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤克哉,安森亮雄,大嶽陽徳,小林基澄
2. 発表標題 群馬県桐生市における大谷石造ノコギリ屋根工場の構成と増改築-栃木県宇都宮市を中心とする大谷石建造物に関する研究(17)
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉田成宏, 青柳憲昌
2. 発表標題 長江家住宅北棟の復原的考察
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 青柳憲昌, 坪田勲伴, 大場修
2. 発表標題 旧今庄宿大黒屋（主屋）の建築史的価値
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 奥谷 三穂, 上杉 和央, 大場 修, 他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 336
3. 書名 くらしの景観：日本と中国の集落	

1. 著者名 青柳憲昌、門脇耕三、他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 TOTO出版	5. 総ページ数 208
3. 書名 ふるまいの連鎖：エレメントの軌跡	



1. 著者名 大場 修	4. 発行年 2019年
2. 出版社 淡交社	5. 総ページ数 176
3. 書名 「京町家カルテ」が解く 京都人が知らない京町家の世界	

1. 著者名 大場 修, 青柳憲昌, 安高尚毅, 奥矢 恵, 長田城治, 角 幸博, 釜床美也子, 黒野弘靖, 畔柳昭雄, 小林久高, 小林基澄, 真田純子, 陳 国棟, 中村琢巳, 中村 航, 平尾和洋, 安森亮雄, 山田宮土理, 山田由香里	4. 発行年 2024年
2. 出版社 鹿島出版会	5. 総ページ数 308
3. 書名 図説 付属屋と小屋の建築誌-もうひとつの民家の系譜-	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	平尾 和洋  (Hirao Kazuhiro)  (00252479)	立命館大学・理工学部・教授   (34315)	
研究分担者	青柳 憲昌  (Aoyagi Norimasa)  (00514837)	立命館大学・理工学部・准教授   (34315)	
研究分担者	安森 亮雄  (Yasumori Akio)  (20456263)	千葉大学・大学院工学研究院・教授   (12501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	安高 尚毅  (Ataka Naoki)  (50341392)	小山工業高等専門学校・建築学科・教授    (52201)	
研究分担者	黒野 弘靖  (Kurono Hiroyasu)  (80221951)	新潟大学・自然科学系・准教授    (13101)	
研究分担者	小林 久高  (Kobayashi Hisataka)  (80575275)	島根大学・学術研究院環境システム科学系・准教授    (15201)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関